美しい空の勇者　淵上百合子

昭和35年7月14日　木曜日　朝日新聞（夕刊）

ノースウエスト機

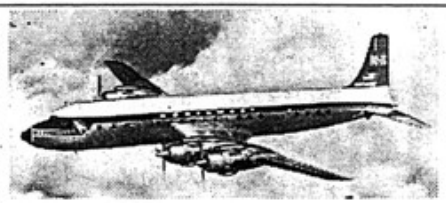
比国沖で不時着水

羽田発マニラへの途中 56人は救助か

【マニラ十四日発＝AP】ノースウエスト航空は十四日午前四時二十分（日本時間同五時二十分）ごろ乗客五十一人、乗員七人、計五十八人を乗せた羽田経由マニラ行きの同航空グラスDC7C型機が、フィリピン北岸のジョマリグ島付近の海上に不時着水したが、このうち五十六人が生存、救命ブイや救命筏に乗り移っていると発表した。

同航空マニラ支店の話によると、同機は午前三時二十分、第二プロペラに故障を起こした。同四時二十分、ラール機長は主翼に火災が起こり、プロペラは飛び、同機は海上に不時着水すると打電してきた。同機の位置はフィリピン沿岸から十分間飛行したところ。マニラ空港の管制塔は午前四時二十分、同機から無電を受けたのち、連絡が途切れたといった。

しかし救難に当たっている米海軍のスポークスマンは「五十六人が助かったというクラーク飛行場からの報告はまだ確定されて、何人が助けられたが、まだ人数はっきりしない」といっている。



不時着水したノースウエスト機と同型のDC7C機

日本人は二人

東京入管羽田出張所の調べによると、事故を起こしたノースウエスト航空機は十三日午十時すぎ、六十二人の乗客と七人の乗員を乗せ沖縄経由でマニラへ向け東京羽田を出発した。ノースウエスト航空東京支店、同羽田事務所に入った連絡によると沖縄出発後、事故当時の乗客数は五十一人でうち日本人は乗客の大阪市天王寺区北河堀町四三、日綿実業株式会社専務取締役（ゴルフ）とスチュワーデスの東京都千代田区千代田四ノ八八三、角谷さん方の淵上百合子さん（二〇）の二人だけ。

北村　禎敏氏

淵上百合子さん

同機は十四日午前四時廿分（現地時間）ごろ、マニラ到着を定時間のおよそ十分ぐらい前に左翼右側の第二エンジンのプロペラに故障を起こし翼から出火、マニラからおよそ百四十キロ離れた海岸線の沖合およそ四十キロの海上に不時着した。

フィリピンのクラークフィールド空軍基地などから海上へ救援用の海上艇や船舶などの捜索救援隊が出動した。一方、同航空東京支店からはベンスコーター極東支配人後藤社長ほか三人が同日午前九時半羽田発のフランス航空機でマニラに向かった。

北村氏は無事

【マニラ十四日発＝AP】遭難したノースウエスト機から救出された乗客の第一回一行十人は十四日午後零時四十三分マニラ空港に帰着した。日綿の北村禎敏氏は二行の二番目に救出機から抱いて降りてきた。

二遺体収容の報も

十四日午前十時すぎノースウエスト航空マニラ支店から東京支店へ入った電報によると「救出機は救命イカダ四隻を発見」同二十分の連絡によると「乗客乗員五十八人のうち五十六人を救難艇とイカダに収容したが、氏名は不明で、これより先に二遺体を収容したとの報告があった」と伝えている。

同航空本社から東京支店に入った連絡も五十六人救助、二人死亡、生存者の負傷の程度は分からない、と伝えている。

フィリピン航空機も墜落

乗客ら全員無事

【マニラ十四日発＝AP】サングレー・ポイントの米海軍は「乗客と乗員計三十一人をのせたフィリピン航空のDC3型機がネグロス島とミンダナオ島西北岸の間の海上に墜落した」と発表した。

【マニラ十四日発＝AP＝】この後同機からの連絡によって全員無事なことがわかった。

美しい空の勇者　淵上百合子

昭和35年7月20日　水曜日　朝日新聞

立派だった淵上さん

不時着水の米機長語る

不時着当時の様子を語るロール機長と淵上スチュワーデス＝羽田空港で

去る十四日朝、フィリピン東方の太平洋に不時着水したノースウエスト航空ダグラスDC-6機のデビッド・ロール機長ほか乗員六人が十九日午後七時、同社機でマニラから東京羽田空港についた。ロール機長とスチュワーデスの東京都目黒区下目黒四ノ八八三荷谷方、淵上百合子さん(三〇)の二人は、事故の模様についてつぎのように語った。

ロール機長　沖縄を離陸、マニラに向かい二時間ほどしたら、左主翼内側の第二エンジンが故障であることに気付いた。間もなく第二エンジンから二度目の火が出た。霧タンクに引火、爆発するのを防ぐためとっさに海上に不時着水した。大きな救命ブイに乗客、乗員五十八人が乗り移り、三時間ほど漂流したところ、米海軍哨戒と米海軍の飛行艇二機が来て助けてくれた。淵上さんは他の乗員とともに船腹まで機内に残り、お客を機外に出してから海に飛びこみ、泳いでいる者を指図して救命ブイに収容した。乗員として立派な態度だった。

淵上さん　着水の準備をするときお客さんは冷静だった。アメリカ人のケリー夫人も海に飛びこんだが救い上げたときは、すでにこときれていたのは気の毒だった。こんな事故にはじめてあったが、こわいと思うよりみんなを助けるので精いっぱいだった。

天声人語　昭和３５年（１９６０年）年７月２１日

このごろ海外では旅客機の事故が多い。飛行機の墜落や爆発事故は決定的で、ほとんど命は助からない。一時に数十人も死んだという記事がよく新聞にのっている▼去る十四日未明、フィリピン東方の海上に不時着水したノースウエスト航空の事故で、乗客・乗員ら五十七人が助かったのは（一婦人だけショックによる心臓マヒで死亡）奇跡と思われた。そのかげに日本人スチュワーデスの沈着な働きがあったとは、ちかごろうれしい話▼旅客機のプロペラが焼け飛んで胴体に穴があき、不時着水してから十分間足らずで機体は海中に沈んだ。そのわずかな時間の間に五十八人が脱出して、四隻の救命イカダに乗り移ったのだが、スチュワーデス淵上百合子さんは冷静にテキパキ誘導したという▼ロール機長が足にケガしているのを見て、一瞬を争う混乱の中なのに、自分のストッキングをぬぎ血止めの包帯をした。海を泳ぐ時、血がフカをよばないようにとの細心の注意だった▼フカの多い海なので、救命イカダの中に飛びこんでくださいと、何度も乗客に注意したそうだ。淵上さんに早く逃げなさいと機長は指示したが、「乗務員のデューティ（義務）を果たします」といって乗客全員の脱出を見とどけてから、海に飛びこんだ。救命イカダは機体からもう離れていたからだ▼そしてスコールのなかをただ一人で八分間ほど泳ぎ、イカダに泳ぎついた。そのうしろでは機体はすでに海中に姿を没していたという。自分の身一つの非難だけで手一ぱいだった乗客たちは、その独泳に感謝の声援を送ったそうだ▼二十八歳の乙女だが、立派なものだ。沈む船に最後まで踏みとどまる船長や艦長にも比すべきだ。本人は「お客さまをみんな無事に助けねばと、それだけが精いっぱいで、こわいと思う余裕もなかった」と語っているが、米人機長は「彼女こそ空の勇者です」とほめたたえる▼いまわしい〝スチュワーデス殺し事件〟など妙なことで日本のスチュワーデスは海外にも有名になっているが、こんどは立派な名声をあげた。人命をあずかる仕事の職業魂、責任感はすべてこうありたいものです。

美しい空の勇者　淵上百合子

昭和35年(1960年)　7月14日　(木曜日)　毎日新聞　(夕刊)

二旅客機が不時着

比国近海　二人が行方不明に

フィリピンの近海で十四日朝四時ごろ旅客機二機が不時着、一機は全員救助されたが、一機の二人が行方不明となった。

【マニラ十四日発UPI】十四日午前四時二十分(マニラ時間)ノースウエスト機ダグラスDC4型(デビッド・G・ロール機長、乗客五十一人、乗員七人)がマニラ東北二百四十キロのホマリグ島付近の海上でプロペラが分離したのち翼に火がつき海上に不時着した。十四日朝、東京羽田空港保安事務所に入った報告によると、五十八人のうち五十六人が救助され、二人が行方不明である。

同機には日本人乗客十人が乗っていたが、九人が沖縄で降り、残りのさいはパキスタンのカラチ支店に赴任のため出発した日綿実業大阪本社の北村禎敏さん(三〇)＝大阪市天王寺区北河堀町四三＝とスチュワーデス淵上百合子さん(三〇)＝東京目黒区下目黒四の八八三＝が乗っていた。

【マニラ十四日発AP＝共同】米サングレー・ポイント海軍基地は十四日「フィリピン航空のDC3旅客機(乗客三十一人)がミンダナオ島近海に不時着した」と発表した。ミンダナオ警察当局は、全員無事海岸に着いた」と発表した。

北村禎敏さん　淵上百合子さん

美しい空の勇者　淵上百合子

昭和35年(1960年)　7月20日　(水曜日)　毎日新聞

"彼女こそ空の勇者"

機長が称える淵上さん

マニラ沖不時着水機の乗員帰る

十四日早朝、マニラ東北方海上でエンジン故障のため緊急着水したノースウエスト航空グラスDC7C旅客機のデビッド・O・ラール機長"ほか六人の乗組員が十九日午後六時五十五分ノースウエスト機で羽田についた。

着水事故で乗員五十八人(乗客五十一、乗組員七)中五十七人が助かったというのは、三年前パン・アメリカン機がハワイ―サンフランシスコ間で無事着水した事件以来のことで、乗組員の落ちついた誘導ぶりが航空関係者から称えられている。

とくに最後まで機にとどまり、乗客の安全を見とどけてから、ただ一人スコールの中を泳いで責任を果たした日本人スチュワーデス、淵上百合子さん(二一=東京目黒区下目黒四の八八三)、角谷さんが=に乗客の感謝の声が集まり、ラール機長は空港での記者会見で「彼女こそ空の英雄だ」とほめちぎっていた。

不時着水の模様を語るラール機長(右)と淵上スチュワーデス=羽田で

機長の説明によると事故の模様はつぎのとおりである。

沖縄を出てから二時間後、二番エンジン(左翼内側エンジン)の調子がおかしくなり、火をふいた。高度六千メートルを三千メートルに下げながら消火につとめたが、プロペラは折れて飛び散り、胴体に当たって穴を開けてしまったので「SOS」を発し、スコールの真っただ中に緊急着水した。

淵上さんは夢中で客室の扉をかけめぐり救命具の出し方から、婦人乗客にイヤリング、ハイヒールなど着水時に危険と思われるものを脱がすなどよく働いた。ゴム製救命イカダを用意したことはもちろんだ。その操作が実にテキパキしていた。そんなときその中で、機長の左足首のケガを発見し淵上さんは急いで包帯し、間違っても滑れ出る恐れがあるから、動かないよう、明らかに注意を促い分けるほど気がついていた。

機は後部からしずかに着水したが、激しいショックが起こ。そのとき"イカダにとびこんでください"と淵上さんの声が聞こえた。四つのイカダにたどりつく乗客を、忙しなく機内からいちいち見とどけていた淵上さんに「早く出なさい」と機長は叫んだが、淵上さんは最後まで残り、一人でイカダまで泳ぎついた。力泳八分。自分一人で手一杯だった乗客たちも、淵上さんの声が聞こえたときにはイカダの上から拍手を送った。

淵上さんの話　故障を知ったときは恐怖感を覚えましたが、あとは夢中で、乗客をイカダにのせることで頭がいっぱいでした。

高級ステンレス製
ポアン剃刀
資生堂
POINT
STAINLESS BLADE
SHIZEIDO TOKYO
両刃・片刃共7枚100円